

夏休みエコいえ作り体験ワークショップ

in 船坂 を開催しました！

住まいづくりコース



第 11 号

平成 29 年 8 月 5 日（土）、船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）にて「夏休みエコいえ作り体験ワークショップ in 船坂」を開催し、暑い中合計 52 名の方にご参加いただきました。

当日は、平成 24 年度の市民ワークショップ「宮っ子エコいえワークショップ」の内容をまとめた「宮っ子エコいえBOOK」を基に、自然と共生した住まい「エコいえ」について学び、船坂地区に残る茅葺屋根の古民家改修現場の見学をした後、学んだことを生かしてエコいえの模型作りを行いました。

講師には、人・まち・住まい研究所の浅見雅之先生、中北幸環境・建築研究所の中北幸先生、一級建築士事務所 YURIDESIGN の前田由利先生をお招きし、「エコいえ」に関するレクチャー、「エコいえ」の模型づくりのアドバイスをしていただきました。また、古民家改修現場の見学では、武庫川女子大学の学生さんが中心となって古民家の再生を行っている「古民家族」の皆さん、そのサポートをされている古材問屋の明木哲生さんにご協力いただき、古民家について分かりやすく説明していただきました。

□1. 「エコいえ」について学ぶ

先生のお話(15分×3=45分)



はじめに浅見先生から、エコいえに関する基礎知識や暑さ・寒さをコントロールする方法について教えていただきました。また、太陽光の使い方について、ひさしのシミュレーションを用いて、分かりやすくお話いただきました。

●エコいえとは

電気やガスなどのエネルギーをあまり使わないで暮らす家のことです。

●家の中で人が暑さ・寒さを感じる理由

「気温の高低、湿度の高低、光が運ぶ熱の強さ、風の有無」によって人は暑い、寒いと感じます。

●エネルギーを出来るだけ使わずに暑さ・寒さをコントロールするには

- ① 太陽をうまく使う…夏は日差しをさえぎり、冬は太陽光を取り入れる
- ② 壁を通り抜ける熱をさえぎり…断熱性を高める
- ③ 風や空気の入りを調節…風があると涼しくなるため、空気の通り道を作る



浅見先生

次に中北先生から、「自然を友達に」というテーマで中北先生ご自身の自邸での実践をもとにお話いただきました。



中北先生

「人間同士で友達になろうと思えば、相手の気持ちを汲み取ることが必要になります。自然にも様々な気持ちがあり、その自然の気持ちを感じ取ることで自然と住まいの関係を考えることが大切です。私自身、阪神淡路大震災をきっかけに自然に対して目を向けたすまいづくりを考えるようになりました。実際に私の自宅を設計したときには、太陽のエネルギーを取り込んで利用できるようにしました。屋根に蓄えられた太陽のエネルギーによって暖められた空気を冬は暖房、夏はお風呂のお湯を温めるために使用しています。また、雨水を雨水槽に貯めることで、非常時にトイレの洗浄水等として活用することが出来ます。」

最後に、前田先生から「草屋根」を利用したエコで涼しげな暮らしについて、自邸や前田先生の設計事例を交えながらお話いただきました。

「私は阪神淡路大震災で倒壊した家の跡地に、壊れたら土に戻るような家をつくりたいという思いから、土と木を主体とした自邸を建てました。子供部屋を設置できる場所は屋根裏しかなく、とても暑くなってしまうので屋根を草屋根にしました。一般的なカラーベストの屋根の表面温度は60℃近くになりますが、草屋根の表面温度は真夏でも35℃程度にしかありません。室温も30℃程度で一定になっています。空調にかかる電気代にも大きな差が生じるため、草屋根にすることで電気代の節約にもなります。また、春には草屋根の上でネジバナやユリ、ハクチョウソウなどの花が咲き、畑にしてメロンやイチゴ、スイカの栽培をして食べたりしています。」



前田先生

先生方からエコいえの話を聞いたあとは、実際に船坂地区にある茅葺古民家の見学を行いました。ここでは、「エコいえ」を体感してもらいながら、古民家改修現場に携わっている「古民家族」の学生さんから古民家についてわかりやすく説明して頂きました。

□2. 古民家の見学

見学（50分）



船坂里山学校から歩いて約10分のところにあります。

- 古民家は屋根が茅（かや）、柱は木、壁は土で建てられていて、全て自然に戻るようになっています。
- 土でできた壁は熱をためる効果があり、室内温度を保持してくれます。
- 茅は、ススキなど、ストロー状になったものの集合体で、表面張力で雨がたまっていくため雨漏りしません。
- 屋根が分厚く、通気性のある屋根なので夏も涼しく過ごせます。
- 茅葺の屋根はとても重いのですが、重心を上にするすることで、地震のときにゆっくり揺れるようにできています。
- 建物は石の上に柱が乗っているだけの伝統的な工法で作られて地震の力をうまく逃がし、倒壊を防ぐ構造となっています。



中に入ると涼しい！という声が聞こえてきました。



古材問屋 明木さん



古民家族の皆さん

講師からのお話と古民家見学を通して「エコいえ」へのイメージがそれぞれ膨らんだところで、実際にエコいえの模型作りをスタートしました。

□3. 「エコいえ」を作る

工作（120分）



模型作りでは、骨組みの家キットにすだれやストロー、スポンジ等の工夫材料を加えて、それぞれ個性溢れるエコいえに仕上げていただきました。



□4. 「エコいえ」工夫ポイント発表

発表（35分）



個性豊かな24軒のエコいえが出来上がり、講師の先生方からのコメントを頂きながらそれぞれの工夫ポイントや感想について何人かの子供たちに発表してもらいました。

みんなの工夫した点・作ったエコいえ

- 太陽の熱をさえぎるために窓の前に木を置きました。
- 雨水をトイレで利用するための樋（とい）をつけました。
- 通気を良くするために高床式にしました。
- すだれ+葉っぱで、グリーンカーテンを作りました。
- 熱がこもらないように屋根を二重にしました。



最後に、浅見先生が「今日は朝からいろいろ勉強してもらい、古民家を見に行き、実際にエコないえを作りました。皆さんがそれぞれしっかり工夫していて素晴らしいです。」と、皆さんの工夫を見て感心されていました。

講師のプロフィール

浅見 雅之(あさみ まさゆき)

合同会社 人・まち・住まい研究所の代表社員。自然と共生した住まい(エコいえ)の観点で設計業務をする傍ら、摂南大学理工学部の講師やまちづくり専門家として多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

前田 由利(まえだ ゆり)

一級建築士事務所 YURIDESIGN 代表。草屋根の建築家として数多くの自然と共生した住まい(エコいえ)を手がけている。また「住宅・環境・屋根緑化」をテーマにした講演・執筆活動など、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

中北 幸(なかきた こう)

「中北幸環境・建築事務所」代表。地球環境及び人間の健康に配慮した住まいづくりを中心に設計活動をおこなっている。安藤忠雄建築研究所に16年間入所し、西宮市内では甲山自然学習館の設計にも携わっており、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

古民家族(こみんかぞく)

武庫川女子大学生活環境学部の学生有志が主催している古民家再生団体で、西宮市山口町船坂にて毎月1・2回活動している。解体寸前であった茅葺き古民家を、伝統工法に基づきボランティアで修復し、その過程で日本の伝統文化や建築様式について研究している。

船坂里山学校(旧船坂小学校跡施設)について

明治6年に開校し平成22年3月末の閉校まで、137年の歴史を有する西宮市で最も古い小学校のひとつで、校舎の大部分が木造となっています。現在、地域の皆さんと市が協働して跡施設の活用について取り組んでいます。平成28年4月より「船坂里山学校」に名称を変更。

皆さんの地域でも「エコいえ作り体験ワークショップ」をしませんか？

皆さんの地域でもエコいえ作り体験ワークショップを行いたい場合は、「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」を活用して開催することが可能です。

「宮っ子のいえアドバイザー」がお手伝いに伺います。

詳しくは市HP「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」をご覧ください！



今後もこのようなイベントを通じ、「エコいえ」について学ぶ場を提供していきたいと考えておりますので、引き続きすまいづくり推進業務へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。